

最期まで私らしくあるために（事前指示書） ご本人が決める場合

いつか迎えるその時のために、ご自身の意思に反した治療や必要以上の治療を受けなくても良いようにしたいものです。あなたが、がんなどの病気の進行や、認知症、老衰、事故等により余命が短い（例えば半年くらい）と告げられ、「治療をしても回復が見込まれない状態」になった時に、どのような治療やケアを望みますか？

呼吸ができなくなった場合に口から管を入れて（挿管して）人工呼吸器をつけるなどいわゆる延命治療があります。別紙にまとめました。一度目を通してください。ご自身がこれらの処置を希望するかどうか家族・代理人や医療・介護関係者などと話し合いましょう。その結果をこの事前指示書に記入しましょう。気持ちが変わったら、何回でも書きかえて構いません。ただし治療をして回復する病気の場合は治す治療が優先となります。

治療をしても回復が見込めない状態になった時に限ります。

延命治療を実施するかどうか、当てはまるものに○をつけてください。

- () 自然に最期を迎えたい () 医療者に任せる
() 場合によって以下の処置をしてほしい
- ①心臓が止まった時の心臓マッサージ (希望する・希望しない・分からない)
 - ②呼吸停止時または止まりそうな時の挿管 (希望する・希望しない・分からない)
 - ③同様の時の人工呼吸器 (希望する・希望しない・分からない)
 - ④昇圧剤（血圧をあげる注射） (希望する・希望しない・分からない)
 - その他のご希望 ()

食事が食べられなくなってしまったとき

当てはまるものに○をつけてください。複数でもかまいません。

- ①食べられなくなったらそのまま自然に最期を迎えたい。 ()
- ②カロリーは足りないが普通の点滴をしてほしい。 ()
- ③経鼻チューブ（鼻）から経管栄養を入れてほしい。 ()
- ④経管栄養を入れるための胃ろうを造ってほしい。 ()
- ⑤太い静脈（中心静脈）から高カロリーの点滴を入れてほしい。 ()
- () 医療者に任せる
- その他のご希望 ()

最期まで私らしくあるために（事前指示書） ご本人が決める場合

どこで最期を迎えたいですか？ 当てはまるものに○をつけてください。

- 自宅 () 病院 () 今の施設 () 家族や信頼できる人に任せる ()
その他のご希望 ()

自宅や施設で容態が急変した時 当てはまるものに○をつけてください

- ①救急車を呼んでほしい ()
- ②救急車は呼ばないで、かかりつけ医や訪問看護師等に連絡してほしい ()
- ③決められない・分からない ()

かかりつけ医や訪問診療医、訪問看護師を決めておくと、いざという時に来てくれるので、救急車を頼まなくてもよい場合があります。

その他ご希望や言づてがあれば自由にお書きください
(例 お葬式は内輪だけでしてください。ペットを頼みます等)

《 ご本人署名 》

ふりがな

氏名： _____ 生年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

住所： _____

書かれたときに同席した家族・代理人、医療・介護・行政等関係者

氏名： _____ 関係： _____ 氏名： _____ 関係： _____

氏名： _____ 関係： _____ 氏名： _____ 関係： _____

署名日1： _____ 年 _____ 月 _____ 日

変更日1： _____ 年 _____ 月 _____ 日 変更日2： _____ 年 _____ 月 _____ 日

自分で意思を表出できない状況になった時に医療者の説明を聞いて、判断してもらう人（代理人）を決めてお願いしておきましょう。家族やパートナー、友人など。

ふりがな

代理人氏名： _____ 関係（続柄）： _____

住所： _____

電話番号（連絡先）： _____ () _____ (自宅・携帯)

最期までその人らしくあるために

ご本人が意思を表せない時 ご家族や代理人が推測して記入します

あなたの大切な人が、がんなどの病気の進行や認知症、老衰、事故等により余命が短い（例えば半年くらい）と告げられ、「治療をしても回復が見込まれない状態」になって、自分の意思を表せない状態になっていた時、本人はどのような治療やケアを望まれると思いますか？本人が意思を表せないときは、家族・代理人が、これまでのその人の言動を思い起こして、最期をどのように迎えたかったのかを推測しましょう。本人が書いた事前指示書があれば、その内容を確認しましょう。呼吸ができなくなった場合に、人工呼吸器をつけるなどのいわゆる延命治療があります。別紙にまとめました。一度目を通しておいってください。これらの処置を本人が希望するかどうかなども記入しましょう。分からなければ医療関係者の話を聞いて考えてみましょう。ただし治療をして治る病気の場合には、治療が優先となります。

治療をしても回復が見込めない状態になった時に限ります。

延命治療を実施するかどうか、当てはまるものに○をつけてください。

- () 自然に最期を迎えさせたい
() 医療者に任せる
() 場合によって以下の処置をしてほしい
- ①心臓が止まった時の心臓マッサージ (希望する・希望しない・分からない)
 - ②呼吸停止時または止まりそうな時の挿管 (希望する・希望しない・分からない)
 - ③同様の時の人工呼吸器 (希望する・希望しない・分からない)
 - ④昇圧剤（血圧をあげる注射） (希望する・希望しない・分からない)
 - その他のご希望 ()

食事が食べられなくなってしまったとき ※ 当てはまるものに○をつけてください。

- ①食べられなくなったらそのまま自然に最期を迎えさせてあげたい。()
 - ②カロリーは足りないが普通の点滴をしてほしい。()
 - ③経鼻チューブ（鼻）から経管栄養を入れてほしい。()
 - ④経管栄養を入れるための胃ろうを造ってほしい。()
 - ⑤太い静脈（中心静脈）から高カロリーの点滴を入れてほしい。()
- () 医療者に任せる
その他のご希望 ()

最期までその人らしくあるために

ご本人が意思を表せない時 ご家族や代理人が推測して記入します

最期を迎えたい場所はどこを希望されると思いますか？ ○をつけてください。

自宅 () 病院 () 今いる施設 () その他 ()

自宅や施設で容態が急変した時 当てはまるものに○をつけてください

- ①救急車を呼んでほしい ()
- ②救急車は呼ばないで、かかりつけ医や訪問看護師等に連絡してほしい ()
- ③決められない・分からない ()

かかりつけ医や訪問診療医、訪問看護師を決めておくと、いざという時に来てくれるので、救急車を頼まなくてもよくなります。

その他 ご希望や言づてがあれば自由にお書きください
(例：本人はお寿司がとても好きだったので、最期に食べさせてあげたい等)

《 ご本人 》

ふりがな

氏名： _____ 生年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

住所： _____

《 代理人 ご本人のかわりに医療者が話をして判断する人 》

ふりがな

代理人氏名（自署）： _____ 関係（続柄）： _____

電話番号（連絡先）： _____ () _____ (自宅 ・ 携帯)

一緒に書かれた家族、知人、代理人、医療・介護・行政等関係者

氏名： _____ 関係： _____ 氏名： _____ 関係： _____

氏名： _____ 関係： _____ 氏名： _____ 関係： _____

署名日1： _____ 年 _____ 月 _____ 日

変更日1： _____ 年 _____ 月 _____ 日 変更日2： _____ 年 _____ 月 _____ 日

延命治療の例

これらの処置は急性期の治療でもよく使います。その時は積極的に受けてください。がんの末期や認知症、老衰等、治療しても回復する見込みがないと判断した時に行なう場合のみ延命治療となります。

心臓が止まったり、呼吸が止まったり、血圧が下がったりしたとき

心臓マッサージ 心肺蘇生

心臓や呼吸が止まった時に前胸部をリズムカルに押して、全身に血液を送る。胸骨や肋骨骨折が起こることがある。心停止から2分以内に開始すると効果的。急変時ではAEDで電気ショックを与えるのは効果的。ターミナル（治療しても回復する見込みがない）の場合は延命目的となる。



心臓マッサージ

昇圧剤

血圧が下がった時に血圧を上げるために点滴や心臓に針を刺して注射し血圧を上げる。

呼吸ができなくなったり、呼吸が苦しい時に行う処置

1. 挿管

口や鼻から管を入れて気道（呼吸する道）を確保する。挿管は長くても2-3週間。声は出せず、食事できない。



気管挿管

2. 気管切開

挿管が長くなると気管（首）に穴をあけて、カニューレ（管）を入れる。人工呼吸器をつなげることもある。2週間に1度程度交換が必要。



気管切開

3. 人工呼吸器

挿管チューブやカニューレに人工呼吸器をつなげて、人工的に呼吸を補助する。呼吸器を外すと呼吸ができず死に至る場合があるので、命にかかわると予想される場合は1度呼吸器をつけると、医師でも原則として外すことはできない。



人工呼吸器

延命治療の例

口から食事が取れなくなったり、十分な量が取れなくなった時

1. 食べられるだけ食べて、自然にまかせる

食べるとむせて誤嚥性肺炎になる可能性が高い。楽しみ程度を続ける。好きなものだけ食べる。最後は絶食になる。絶食になると1-3週間で衰弱する。



経鼻経管栄養

2. 経鼻経管栄養

流動食を鼻から挿入したチューブから入れる。2週間に1度程度交換。抜けやすく入れ替えが必要なため、老人ホームや介護施設では受け入れてくれないところもある。

3. 胃ろうからの経管栄養

流動食を胃に穴をあけて造った胃ろうから入れる。内視鏡を使った胃ろうの手術（1泊2日程度）が必要。月に1度程度の交換が必要。抜けにくく、管理がしやすいので、老人ホームや介護施設でも受け入れてくれることが多い。



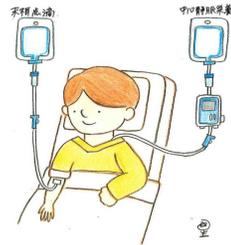
胃ろう

4. 中心静脈栄養

首や股や肘から体の中心部の太い静脈に管を入れ、カロリーが高く濃い点滴をする。栄養は十分取れるので長期に継続できる。刺すときに技術が必要。感染しやすく、時々入れ替えが必要。腸を使わないので、消化機能の低下、肝機能障害に注意。口の清潔が保てないので、口腔ケアが必要。

5. 末梢点滴

普通の細い静脈（腕等）からの点滴。カロリーが少ないので、いつか低栄養になり、衰弱していく。3-6か月程度で衰弱する。



腎臓が悪くて、尿が出ない時

人工透析

腎機能が悪い時に血液透析をして、血液をきれいにする。週に3回、4-5時間程度かかる。延命治療を望まないで人工透析をやめた場合の生存期間は数日から2週間程度。